

文系基礎科目「心理学」レポートの書き方

学籍番号 xxxxxxxx 往住彰文（東京工業大学）

1. はじめに

本科目では、レポートは論文の一種であるとみなしている。レポート作成を、将来取り組むであろう学術論文（卒業論文、修士論文、博士論文、学術雑誌論文など）作成の、いわば練習と位置づけているのである。したがって、形式においても内容においても、ごく小規模ではあるけれども、学術論文としてふさわしい水準が要求されている。本稿の目的は、どのようなレポートが「ふさわしい水準」を満たすのか、詳しく述べることである。

2. レポート用紙と文字数の目安

- 本科目のレポート特有の要件について、まずまとめる。
- (a) 用紙はA4版を使用し、両面を用いること。分量は2枚以上とする
 - (b) 上下左右のマージン（空白）は可能な限り小さくとり、なるべく小さな字で記入すること。
 - (c) 表紙はつけず、第1枚目の上部に題目と学籍番号・氏名を記入する。上記(a)(b)(c)は、紙資源の節約のためである。
 - (d) 手書き、ワープロ印刷のどちらでも可である。選択できるなら、ワープロ印刷が望ましい。
 - (e) 上記(b)に「なるべく小さな字」とあるが、字数の目安としては、A4片面に1000字以上と考えていただきたい。すなわち、両面2枚以上では、4000字以上となる。
 - (f) 図や表は、その占有面積分の文字数として計算する。

3. レポートの形式

以下の3つの条件は学術論文として必要なものであり、したがって本科目ではこれを満たしていることを合格の必須条件とする。(i) 構造の明示、(ii) 図表の使用、(iii) 知的所有権の尊重、の3つである。それぞれの細部は、学問領域によって習慣が異なっているのが普通なので、自分が将来進みたい専門領域での学術論文はどのようなものか、この機会に学習していただきたい。

以下に述べるのは、心理学や認知科学における例である。

3.1 構造の明示

内容の構造に合わせた、形式の構造を論文の明示的な構造とすることで、可読性が向上する。具体的には、本文に「節」の構造をもたせ、節には番号と題目をつける。本稿もその原則にしたがっている。

3.2 図・表の使用

現代の論文は、図や表を使用することで可読性を向上させる。そこで、本科目のレポートでは、図もしくは表を最低1つは使用することを原則とする。

図や表には番号とキャプション（説明）を必ずつける。心理学や認知科学では、図のキャプションは図の下に、表のキャプションは表の上につける習慣がある。

表1 表のキャプションの例

3.3 知的財産権の尊重

論文を作成する際に、他の研究者の論文や著作を参照することは避けられない。むしろ、他の研究との位置付けを明確にするためには、積極的に他の論文との関係を明示的に述べる必要がある。次の指針を参考としていただきたい。

- (a) 引用はおこなわない。他の論文の内容の一部を、そのことが明確にわかるようにした上で使用することを引用という。科学論文ではこれをおこなう必要はほとんど考えられないので、原則としておこなわない。
- (b) 参照はその場その場で明確におこなう。他の論文に述べられている事実や考えに言及することを参照という。本文中では

東(1999)によれば、この現象は、...

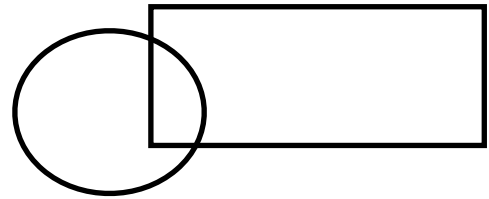


図1 図のキャプションの例

... という分析がおこなわれている（石川，2000）。

のように出典を著者名で示した上で、論文の最終部の「文献」欄において、

東工太 (1999) フラッシュバルブ記憶の性質. 日本心理学研究. 8 (4), pp.344-349.

石川緑 (2000) 文彩表現の心理学. 東工大出版会.

のように書誌情報を記述する。

学術論文を直接参照するのではなく、他の著作（本）で解説されている学術論文を参照したい場合があるかもしれない。これを通称「孫引き」といい、学術論文においては戒められている（必ず原論文にあたるべきである）。とはいえ、本科目のレポートではこうした場合の方がむしろ多いとも考えられるのでその方法を述べておく。以下のように孫引きは正直に孫引きと述べるべきである。

石川(2000)の解説によると、東(1999)はこの現象を、...

4. 結論

将来進みたい領域の学術論文は図書館で容易に閲覧できる。その形式をまねることから始め、学術論文作成の技法を着実に学習していただきたい。

文献

東工太 (1999) フラッシュバルブ記憶の性質. 日本心理学研究. 8 (4), pp.344-349.

石川緑 (2000) 文彩表現の心理学. 東工大出版会.

書籍、論文以外の文献のための書式

・新聞等の無署名記事

東工破綻へ (2009年4月14日) 大岡山新聞, p.12.

・テレビ放送等の無署名番組

ニュース7:30(2009年5月14日) テレビ東工.

・テレビ番組等の署名あり番組

石川緑（プロデューサー）(2009)東工大の新世紀. テレビ東工.

・CD、DVD等のメディア

東工太 (1999) すずかけの大岡山. Compact Disk, 東工レコード.

・Web上の無署名ページ

新しい心の科学 <http://www.mind.ac.jp/psych/> (2010年5月27日)

・Web上の署名ありページ

石川緑 古い心の科学 <http://www.mind.ac.jp/psy/> (2010年5月27日)

（文献はいずれも架空の例です。）